

第38回 日本基督教団総会

2012年10月23日(火)～25日(木)

総会速報発行委員会 発行

2012.10.23 18:20

No.1

速報
soukai sokuhou

第38回教団総会開催

「伝道する教団の建設」
を主題に

10月23日(火)、ホテルメトロポリタンを会場に、東日本大震災後初となる第38回日本基督教団総会が「伝道する教団の建設」を主題に掲げ開催された。

開会時の議員総数は400名中376名。

開会礼拝において、東北教区議長の高橋和人・仙台東六番丁教会牧師による「涙から慰めへ復興」と題する説教に一同思いを合わせ耳を傾けた。

その後組織会、議事日程承認と進んだ。議事日程承認の議論の中で、49号議案の取り扱いについて意見が出されたが、議案書とおりの取り扱いとなった。なお、48号議案は6号議案前に上程し、42号議案は20号議案と併せて審議することが確認され、議事日程は承認された。

その後、議長報告がされ、報告について質疑応答がされた。以下抜粋の形で報告する。

る。

第32回教団総会における青年伝道決議の成果についての問いに、各教区等で青年伝道に励んでいる現実があり、特に今夏軽井沢で行われた青年大会には大きな希望を見たとの答えがあった。

伝道所の位置づけについての検討については、震災対応でなかなか進ませることができなかったが、今総会期に特設委員会を中心にじっくり検討していくと答えた。

宣教基礎理論の改定については、宣教研究所が取り扱うのは教規違反、越権行為なので、という問いに対し、正規の手続きを踏んでいるが、指摘

を受け止めて、持ち帰って検討したいと答えた。

教師養成について、教団に疑問を持つ神学校に対して信仰告白の尊重を求めるのはどうかという問いに対し、各神学校の独自性は尊重するが、教団の教師を養成する神学校には信仰告白と教憲教規を尊重することを求めるのは当然だと答えた。

沖縄でのオスプレイ配備等に関する緊急議案を出そうとしたが断られたとの声に対しては、議事日程はすでに確定しているが、建議として提出すればそのような形で扱う可能性はあるとの答えがあった。

第38回日本基督教団総会開催にあたり、午後1時30分より、開会礼拝がさげられた。司式Ⅱ小中乃美子・永福町教会員、奏楽Ⅱ飯靖子・霊南坂教会員。エゼキエル書37章1～10節、ヘブライ人への手紙5章7～10節より、高橋和人・仙台東六番丁教会牧師が「涙から慰めへ復興」と題して説教した。以下、要旨。

震災より1年8か月を経て、仙台市の町は片付けられ新しくなりましたが、綺麗な町の中で悲しみが沸き起こるような出来事がある。

開会礼拝

『涙から慰めへの復興』

高橋和人牧師による説教

昨年4月交通が回復し、原発に近い教会を訪ねた際に見た積み上がったままの瓦礫の塊が目に見えて付いている。人々の大切なものが塊となって積み上がっており、その中から叫び声が聞こえるようだった。南相馬の小高伝道所を訪ねると、津波の跡がタイムカプセルのように残っていた。被災し

骸の中で、神はエゼキエルに、「これらの骨は生き返ることが出来るか」と問われる。エゼキエルは答えがなく、立ち尽くすしかなかった。しかし、そこから語り始めることを命じられる。震災の後、何度も立ち尽くしながら語らなければならぬ状況におかれた。しかし、まさに、そこに主の御手

き、語り、祈ることが、来たるべき主を待つ教会だけができる、復興を下から支える務めである。

これまで導かれ、このように集められたのも主のとりなしによって起こったことである。この総会期を主の導きの内に過ごしたい。

が働き、霊が風のように吹き込んで来る。ヘブライ人の手紙5章7節以下には、主イエスが激しい涙と祈りの中で従順を学ばれたことが語られている。我々の激しい涙と叫びがあるところに主イエスが、大祭司として立ち、とりなして下さる。とりなしを受けている人は、涙の中にこそ主が近いことを知ることが出来る。復興には人の力が必要であるが、霊による復興、涙から慰めへの復興は、主のとりなしによって起こる。主のとりなしを受けた者はとりなす務めを負う。聖書を御言葉として聞き、語り、祈ることが、来たるべき主を待つ教会だけができる、復興を下から支える務めである。

総会速報について

「総会速報」を発行いたします。今回は4号までの予定です。

なお、この「総会速報」は正式の議事録ではありません。拙速ゆえの間違いなどがありましたら、ご容赦ください。

また、この速報はインターネットでもご覧になれます。

URL www.uccj.org